佐藤発言 糾弾 古田の居直りを許すな

9・30確認事項を実現し、日大を民主化しよう

すべての日大の学生諸君！

一〇・二六事態以来、スト・バリケードをめぐって激しい攻防が続いてきたが、ついに十月二日、古田一派の暴力的な学園封鎖を打ち破って、我々は学園に復帰した。

我々は、我々の闘いをこめて、古田体制をめざす執念の学園封鎖、教授会に潜んでいた古田の学園封鎖協力者たちに対して、心からの怒りをぶつけてきたのである。

とくに我々の闘争を憎しみをこめて、暴力でもって圧殺しようとした古田一派の教授会に対しては、全学生の名において、厳しい糾弾を行なってきたのである。

佐藤総長の介入をうけた「調停案」にしても、古田派の学生にしても、十月二日、九学友の裏切りを経つつ学生たちは、断固として「調停」が認められないことを確認し、闘争を継続した。そして、その後学生は総勢二千名をこえる、厳しい闘争のテンションを維持してきたのである。

学生諸君！

九・三〇の集会は何故に行なわれたのか。

それは、全学生の八分の一にすぎない古田派の学生にのみ、「調停」が認められたことに対して、全学生の怒りを結集し、古田派学生の学友化を図るとともに、古田一派の暴力的な学園封鎖を打ち破るためであった。

また、我々の闘いに対し、古田と結託した佐藤総長が、調停案を出してきたが、それは古田派学生の学友化を図るものであり、我々は絶対に認めるわけにはいかない。九・三〇集会は、古田一派の暴力的な学園封鎖を打ち破るための闘いであり、古田一派の学友化を図るものではない。九・三〇集会は、古田一派の暴力的な学園封鎖を打ち破るための闘いであり、古田一派の学友化を図るものではない。

いまこそ、古田のすべての学友はいままでとちがったかたちで本闘争に決起し、古田を追いつめる時が来たのである。古田一派の暴力的な学園封鎖を打ち破るための闘いに決起するとともに、学友諸君！古田一派を打倒しようではないか。

日大闘争を真に勝利へみちびくカは、古田八百学友のひとりひとりの力であることを、あらためて我々は確認しよう。

学友諸君！

日大闘争はいま重大な一段階にきている。九・三〇集会の成果を基礎として、日本大学を民主化し、これを社会化の手がかりとしていくための闘いの展開を我々の手にしかとたぐりよせるか、それとも古田の策動をゆるしてしまうか、という段階である。

いままでいかなる学友の目前にも、これほどまでの可能性と課題とされていることはない。全学共闘はいまこそ、こうしたすべての学友の怒りと要求を結集し、闘争の成果を確実なものにするために積極的な闘いに決起しなければならない。我々は全学共闘に結集することにより、学生自治会を再建していくための、全学的な体制を私達自身のものとしよう。

我々の当面の要求は、

(1) 古田はじめ佐藤総長の暴力的策動を許すな。古田暴力の責任追及なくして、一般学生の復帰の問題はない。

(2) 佐藤総長は、古田派学生の「調停案」を撤回せよ。

(3) 全学共闘は、佐藤総長の「調停案」を粉砕せよ。

(4) 学友二千名結集の総決起のもとで、学園七万人（法学の授業二千二百、文系の授業、そしてそれぞれの学部、学科の授業）をストップさせ、全学生の力で古田一派の暴力的学園封鎖を打ち破れ。

(5) 古田一派の暴力的学園封鎖を打ち破るために、我々は学友の力にたちあがることを訴える。

(6) 学園封鎖の協力者を糾弾せよ。すべての教授会を全学生の名において糾弾せよ。

(7) 全学共闘を基礎に全学生の自治会を再建せよ。

(8) すべての学友はラスト、徹底、オールA、自治会、総学生大会をかちとるために立ちあがれ。

全共闘議長と全日大生に訴える。

一九六九年十月七日

日本大学二部全共闘総決起実行委員会